

真宗本廟(東本願寺)と井波別院瑞泉寺の彫刻関連年表

真宗本廟(東本願寺)

井波別院瑞泉寺

東本願寺の御用彫刻師・前川三四郎らが伽藍再建のため井波に派遣され、井波の大工が弟子入り(井波彫刻の歴史はじまる)

瑞泉寺伽藍焼失

瑞泉寺本堂上棟式

現在の瑞泉寺山門ちやうな新始め

京都大火により東本願寺両堂焼失

瑞泉寺再建事業の棟梁を務めていた本山御用大工が、東本願寺再建のため京都に戻る

前川三四郎による龍の彫刻が現存

現在の瑞泉寺山門上棟式

境内からの出火により東本願寺両堂焼失

瑞泉寺太子堂竣工(両堂形式のはじまり)

ペリー来航

京都大火により東本願寺両堂焼失

禁門の変により東本願寺両堂焼失

瑞泉寺本堂・太子堂焼失(山門は焼失を逃れる)

大政奉還

東本願寺両堂再建の書立が発せられる

現在の瑞泉寺本堂起工

現在の瑞泉寺本堂仮遷仏式

井波の岩倉理八(=田村理七)が東本願寺の彫刻主任となる

現在の東本願寺鐘楼竣工 日清戦争はじまる

現在の東本願寺両堂落慶

日露戦争はじまる

京都市動物園にライオン来たる【MAP®をCheck!】

現在の東本願寺御影堂門起工

翌年、井波から岩倉理八ら再び上洛

現在の東本願寺阿弥陀堂門起工

現在の東本願寺御影堂門・阿弥陀堂門落成

現在の瑞泉寺太子堂起工

第一次世界大戦はじまる



現在の瑞泉寺太子堂落慶
東本願寺の再建事業に携わり、全国の彫刻師と腕を競い合った井波彫刻師の匠の技が結実

井波彫刻師による木彫案内看板が寄進される

宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要にて「井波彫刻師による東本願寺の彫刻ガイドツアー」実施

ガイドツアーの様子は動画でご覧いただけます



井波彫刻と真宗本廟(東本願寺)

井波彫刻(富山県南砺市)と東本願寺のつながりは深く、そのはじまりは江戸時代。1762(宝暦12)年、井波別院瑞泉寺が焼失。その再建事業に東本願寺の御用彫刻師・前川三四郎らが派遣され、井波の大工が弟子入りしたことから、日本遺産にも選定された「木彫刻のまち 井波」の歴史が始まります。明治期の東本願寺再建事業では、今度は井波の彫刻師が京都に駆け付け、井波の岩倉理八が彫刻主任を務めるなど、井波の彫刻師らが活躍。現在に残る彫刻の数々が彫られました。時は流れ、宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃事業として取り組まれた別院と地域をつなぐ「井波別院瑞泉寺活性化プロジェクト」がご縁となり、現代の井波彫刻師の手による「木彫案内看板」が寄進され、御影堂・阿弥陀堂の向拝にて、参拝の皆さまをお迎えしております。



行ってみよう!

日本遺産 木彫刻のまち 井波

本願寺5世 綽如上人と浄土真宗の教えを大切に思う多くの人々によって建てられた井波別院瑞泉寺の門前町・富山県南砺市井波。「トントン」「カンカン」とリズムカルな木槌の音が響くまちは、まさに木彫刻の美術館。中でも、大正時代に再建された瑞泉寺の太子堂は、井波彫刻の宝庫。明治期の東本願寺再建事業で各地の彫刻師と腕を競った井波彫刻師の技が生きています。瑞泉寺の門前には、お寺を大切に思う地元の方々が発行する「テラまち雑貨店」。お寺と地域をつなぐ取り組みが行われ、「物語のあるおみやげ」も販売されています。



テラまち雑貨店



井波彫刻協同組合



東本願寺にお参りする

【協力】井波彫刻協同組合
【発行】真宗大谷派(東本願寺)

真宗本廟

東本願寺

彫刻ガイドマップ

あみだどう
阿弥陀堂

POINT 彫刻の陰影がはっきり見えるおすすめは朝!

阿弥陀堂には、御影堂よりも多くの彫刻が施されています。金色に輝く欄間、お堂の内外の臺股に彫られた植物や動物等の彫刻。普段は薄暗い室内ですが、東向きのお堂に朝日が差し込む時間帯には、高所にある彫刻の陰影もはっきりとご覧いただけます。また、縁側上部の臺股には十二支と草木が交互に彫られているのも見どころです。毎朝7時から勤まる両堂でのお勤めにお参りいただき、ぜひご覧ください。



ごえいどう
御影堂

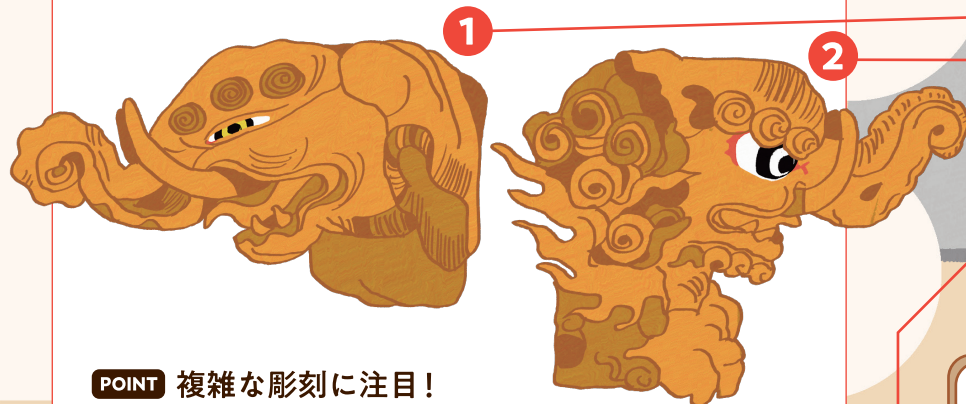
POINT 間近に彫刻をご覧いただけます

御影堂北側落縁から見える鹿に楓の縁側欄間は、最も間近に見られる彫刻の一つです。現代につながる井波の欄間彫刻のルーツが感じられる作風です。



あみだどう ごえいどう
阿弥陀堂&御影堂

内陣と外陣の間には、それぞれ豪華な欄間彫刻が施されています。浄土の世界を表す阿弥陀堂は、欄間上の臺股も含め金箔押しされているのに対し、親鸞聖人の御真影を安置する御影堂は、欄間には金箔が押されているものの、その上の臺股は白木といった違いがあります。

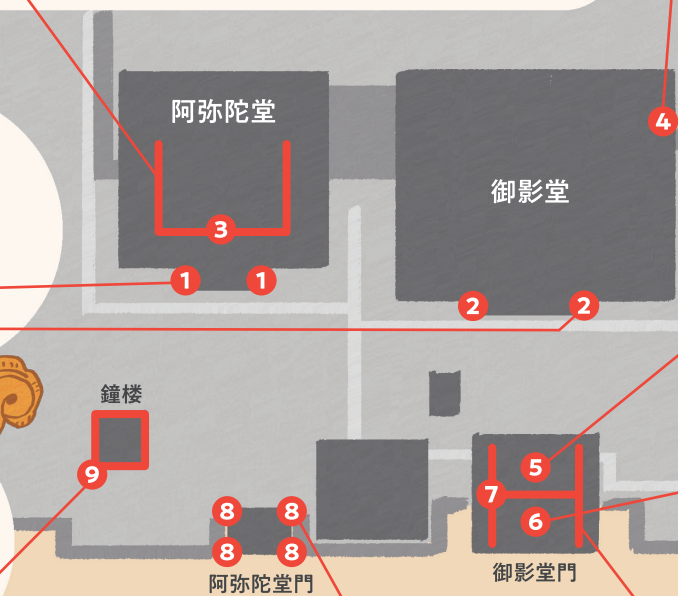


POINT 複雑な彫刻に注目!

両堂の階段の上を見上げると、手挟と呼ばれる寺院建築独特の建築部位があり、阿弥陀堂には蓮、御影堂には中央から左右対称に天人、「仏説阿弥陀経」に出てくる迦陵頻伽、龍、芙蓉錦鶏などの見事な彫刻が施されています。木鼻の象(阿弥陀堂①)、猿(御影堂②)にもご注目ください。



しょうろう
鐘楼 鐘楼にも彫刻主任を務めた井波の岩倉理八(=田村理七)による彫刻が随所に施されています。



境内彫刻マップ

あみだどうもん
阿弥陀堂門

明治時代に初めて見たライオン?

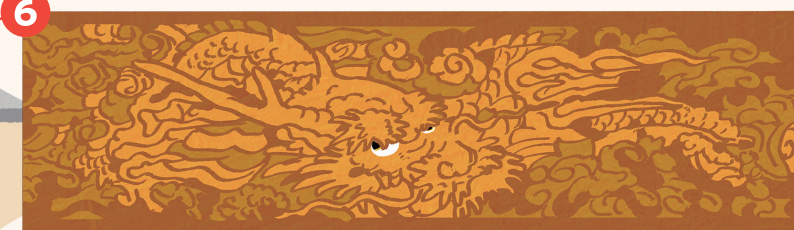
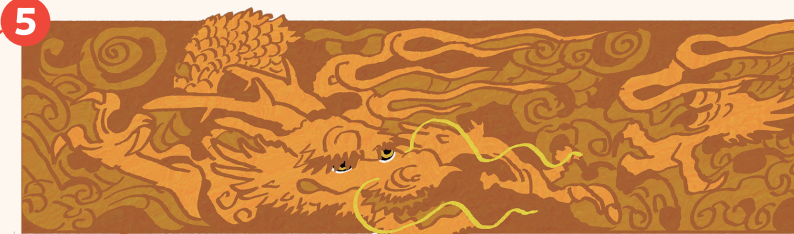
木鼻には、ライオンに似た獅子が京都の彫刻師により彫られています。1906年、開園3年目の京都市動物園に上野動物園からライオンがやってきました。阿弥陀堂門が作られたのはその直後。生きたライオンを初めて見た感動でこの木鼻を彫ったのではないかと想像が膨らみます。



ごえいどうもん
御影堂門

POINT 見比べてみよう! 東西の両龍

欄間には見事な龍。東(烏丸通側⑥)は尾張、西(御影堂側⑤)は井波の彫刻師によるものです。それぞれの顔の違いに注目ください。龍の髭も東は木で彫られているのに対し、西は銅で作られているといった違いもあります。



POINT 目を凝らして見てみよう! 虹染の草木

虹梁の両端には、洋風建築の影響を受けた珍しい草木の浮彫。菊・牡丹・椿・びわ・藤・ぶどう・朝顔・鉄線、どの植物が彫られているか探してみてください。

